



学校だより



7月号

令和7年6月30日
江戸川区立瑞江小学校

Society5.0

副校長 小出 紀幸

先日、中華料理のチェーン店で食事をする機会がありました。空いている席に座り、タッチパネルで注文をしました。しばらくすると筒形のロボットが料理を運んできて、それを受け取りおいしくいただきました。食べ終わるとセルフレジに行き、伝票をかざして自分で会計を済ませ、店を出ました。

世の中のICT化もだいぶ進んだものだと感心しました。一方で、店員さんの誰とも「ごちそうさま」や「ありがとうございました」などなく、会話もせず、食事が済みました。私たちが目指し、望んでいる理想的な未来がこういうものなのだろうかと少々複雑な気持ちになりました。現在、大阪では万国博覧会が開催されていますが、どのような未来社会が提案されているのか、改めて関心が芽生えました。

「Society5.0」とは、日本政府が提唱する未来社会の姿です。狩猟社会(1.0)、農耕社会(2.0)、工業社会(3.0)、情報社会(4.0)に続く、デジタル革新の社会がSociety5.0であると定義されています。私たちは科学技術の進展に合わせて社会を作ってきました。暮らし方が変わり、働き方が変わり、法律が変わり、そして教育も変わってきました。狩猟社会とデジタル革新社会で必要な能力はだいぶ違うでしょう。

少し前には「モータリゼーション」という社会の変化がありました。自動車が広く普及して、道路を主として街の作りが変わりました。駐車場を備えた郊外型店舗が増えました。仕事や通勤の仕方も変わりました。交通に関する様々な法律ができました。学校では「交通安全教室」が行われ、交通ルールの指導や自転車の安全な乗り方を教えるようになりました。車がまだ珍しい時代には交通安全教室は必要なかったと思いますが、現在では区や警察と連携した必須の教育になっています。

デジタル革新の社会がどのようなものかは未知数ですが、着実にその方向に向かっていることは確かです。AIの加速度的な進化によって人間がしていた様々な仕事がなくなると言われています。自動運転の実用化が近づいています。接客業はしばらく残ると思いますが、接客担当不在の飲食店はすでに現実化していました。

デジタル革新進展の中でどのような社会を作っていくか。それを主体的に考え、他者とよく議論し合うためにも、瑞江小では学校経営方針にSociety5.0の時代を見据えた教育を掲げています。昨年度はドローンやプロジェクションマッピングの出前授業を招聘して、子どもたちが最新技術を知り、感じ、考える機会を創出しました。科学技術の進展は止められないでしょう。ならば、大人も子どもも全員で知恵を出し合い、科学技術を活かした幸せな社会を作っていきたいものです。